

「詐欺!?!」ATM自動停止

利用者の携帯電話操作、カメラで検知

県信用農業協同組合連合会（JA岐阜信連）は、相次ぐ特殊詐欺被害への対策を強化しようと、同信連のATMに今月から、利用者が携帯電話を操作しているのを検知した場合に取引を強制停止する機能を導入した。県内のJAに順次導入し、未然防止につなげる。

（山田俊介）

J A岐阜信連、被害防止



特殊詐欺被害防止へ携帯電話使用を検知する機能を導入したATM
岐阜市宇佐南、県JA会館

県警によると、県内の2024年の特殊詐欺被害は認知件数が389件。このうち約4割が、ATMなどを通じて現金を振り込ませる手口だった。被害額は12億4393万円に上り、前年の約2倍に増えている。同信連は被害者の多くが携帯電話で犯人の指示を受けながらATMを操作し、被害に遭っている認識がないまま指定口座へ振り込んでいる特徴があるため、対策を図った。

ATMに搭載している既存のカメラに機能を追加。利用者のしぐさを解析したり、画像認識機能で携帯電話の位置を検知したりする仕組み。検知した場合には取引を止め、職員にも通知されるようになっている。

岐阜市宇佐南の県JA会館にある2台のATMで始めており、今後各JAの本支店などで導入を進める。同信連の担当者は「要因の元を絶つことが一番の対策になると考えた。被害を水際で防ぎたい」と話している。